



# 花と共に

私の子どもの頃は戦中戦後で、花よりも食料になる野菜等を育てることに一生懸命な時代でした。福井町で育った私は、友達と野山や川でよく遊び、季節の花を採ってきては空き瓶に挿して楽しんでたものでした。



富岡町 啓子さん  
神田

夏の日、暮れには、家の前の川沿いに近所の人達が集まり、雑談しながらホタルの飛び交うのを見て、夜遅くまで涼んでいたことを思い出します。戦後も落ち着き、花に興味を持っていた私は、花の師匠や先輩、友人に恵まれ、生け花に没頭するようになりました。季節の移ろいにも敏感にな

り、今咲こうとする小さな花に感動し、時が経つのも忘れ花を生けている時は、不安や悲しみを全部吸いとってくれる気がして幸せな気分になります。生け花を習ってくださる近所の方から、「持ち帰った花を一日に何回も眺め癒されている」とお聞きし、花に携わってきよかつたと思う今日このごろです。

現代は感激や感動が薄く、無関心な人が多い時代になってきたといわれています。花を生ける技術も大事ですが、

部屋に花があるだけで心が和みます。しゃれたデザインの食器やかわいい形をした小物入れを花器に見立て、玄関やトイレなどに自分流の世界に一つの花を生けてみてはいかがでしょう。

次は、桑野町の入谷五十鈴さんにお願ひします。

## 市民文芸

### 短歌

平成23年阿南市春季短歌大会

#### 市長賞

枝川 照子  
水に浮く豆腐をずぶり掴みたり人の心に触れる感じす

#### 大会賞

水口 明美  
水平線少し持ちあげ満ちてくる潮は桜の気配も運ぶ

#### 文化振興賞

山西 成彬  
食害のみかん樹百本伐り終えて玉砕のごとき静寂に佇つ

#### 互選賞

臣永 悦子  
ちちははの名を大書して避難所を尋ねてまわる男の子九歳

#### 互選賞

黒部 君代  
風を耳に陽の温もりを背に溜めて春を吸いとる畦の草刈り

#### 入選

柳川 育世  
花の種かたみに分けし山峡の戸毎に同じ春の花咲く

#### 入選

湯浅佐智子  
風冷ゆる空に対して木蓮の掲ぐる書祈りに近し

中学生短歌のポスト入選歌

#### 西條 功一

黙々と歩く遍路の白い袖春風いっぱいふくらませてる

#### 中川 卓也

今はまだ僕の学力つぼみだが桜のように開花させるぞ

#### 庄野 晃輔

日の丸に亀裂が走り地が怒る桃の季節は儚なく過ぎる

#### 若木 玲奈

初恋はうすいピンクがよく似合う桜色したわたしの心

#### 西村 里絵

新しい一步踏み出す君の背をせかせるように春風が押す

#### 林 真樹

みんなとの思い出胸にはばたいて新しい樹にとまりに行くよ

#### 兼任 玲奈

卒業式桜舞い散る春風にのせて伝える別れの言葉

#### 遠藤 薫

手の平を強くにぎってまず一歩初々しさに自分が重なる

藤崎 稔

橘 秀和

清原 栄子

長田 千津

田村 幸江

工藤千鶴子

山笑う女子プロ野球のスタジアム

川田 政子

中村 照美

末岐 美子

十葉は昼の星座や香り立つ襖絵にしたき一株白牡丹

## 川柳

阿南川 柳 会  
高木 旬 笑 選

田上 鶴子  
節電へ新聞読んでテレビ消す

鈴木レイ子  
精一杯生きているかと影に問う

二階千代美  
原点に立つと出口が見えてくる

武田 敏子  
黄昏て過去形になる褒め言葉

橋本 征介  
なるほどを連発してるへボ将棋

阿南市俳句連合会 選

平坂 照美

病床より障子の色で日和見る

## 俳句